

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成30年11月8日(2018.11.8)

【公開番号】特開2017-228(P2017-228A)

【公開日】平成29年1月5日(2017.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2017-001

【出願番号】特願2015-114587(P2015-114587)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年9月21日(2018.9.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技を行う遊技機であって、

遊技者の動作を検出可能な動作検出手段と、

前記動作検出手段によって遊技者の動作が検出される動作有効期間が設けられた動作演出を実行する動作演出実行手段と、

前記動作検出手段による遊技者の動作の検出タイミングが、前記動作有効期間内であれば、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性の報知を実行する報知実行手段と、

前記動作検出手段による遊技者の動作の検出タイミングが、前記動作有効期間内の特定タイミングであるときに、特定演出を実行する特定演出実行手段と、を備え、

前記特定演出実行手段は、前記報知実行手段が特定の報知を実行する場合は前記特定演出の実行を制限する、

ことを特徴する遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(A)遊技者の動作を検出可能な動作検出手段と、

前記動作検出手段によって遊技者の動作が検出される動作有効期間が設けられた動作演出を実行する動作演出実行手段と、

前記動作検出手段による遊技者の動作の検出タイミングが、前記動作有効期間内であれば、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性の報知を実行する報知実行手段と、

前記動作検出手段による遊技者の動作の検出タイミングが、前記動作有効期間内の特定タイミングであるときに、特定演出を実行する特定演出実行手段と、を備え、

前記特定演出実行手段は、前記報知実行手段が特定の報知を実行する場合は前記特定演出の実行を制限する、

ことを特徴する。

(1)上記目的を達成するため本発明に係る遊技機は、

遊技を行う遊技機（例えば、パチンコ遊技機1など）であって、遊技者の動作（例えば、遊技者の操作）を検出可能な動作検出手段（例えば、プッシュボタン31B及びプッシュセンサ35Bなど）と、

前記動作検出手段によって遊技者の動作が検出される動作有効期間（例えば、操作有効期間など）が設けられた動作演出（例えば、予告Aの操作前演出など）を実行する動作演出実行手段（例えば、ステップS530で操作前演出を実行する演出制御用CPU120など）と、

前記動作検出手段による遊技者の動作の検出タイミングが、前記動作有効期間内であれば、遊技者にとって有利な遊技状態（例えば、大当たり遊技状態など）に移行する可能性の報知（例えば、予告Aの成功又は失敗の操作後演出など）を実行する報知実行手段（例えば、ステップS530で操作後演出を実行する演出制御用CPU120など）と、

前記動作検出手段による遊技者の動作の検出タイミングが、前記動作有効期間内の特定タイミング（例えば、最良タイミングなど）であるときに、特定演出（例えば、ST演出など）を実行する特定演出実行手段（例えば、ステップS530でST演出を実行する演出制御用CPU120など）と、を備え、

前記特定演出実行手段は、前記報知実行手段が実行する前記報知が前記有利な遊技状態に移行する可能性が低いことを報知する特定の報知（例えば、失敗の操作後演出など）となる動作演出（例えば、予告A（失敗））において前記特定演出の実行を制限する（例えば、予告A（失敗）を実行すると決定したときにステップS779において演出制限フラグをオン状態とし、演出制限フラグがオン状態のときには、ステップS919においてST演出を実行しないようにする演出制御用CPU120など）、

ことを特徴とする。